

9 月 3 日：投資家の警戒感からベトナム株は下落

米中貿易摩擦の過熱から投資家心理が悪化し休暇明けのベトナム株は下落した。

ホーチミン取引所の VN 指数は 0.48% 下落し 979.36 ポイントで取引を終えた。

先週合計で 0.84% 下落していた。

出来高は 1 億 8650 万株で売買代金は 6.5 兆ドン（2 億 7800 万ドル）ほどであった。

VN30 指数は 0.4% 下落し 888.97 ポイントで取引を終えた。30 銘柄の内 20 銘柄が下落した。

サイゴンハノイ証券によると、休暇明けのベトナム株式市場は警戒感が高まっており、指数は低い流動性の中で揉みあったとのことだった。

投資家は VN 指数が 1000 ポイントの心理的な節目に近づくと警戒感が高まるようだと同証券は報じた。

米中貿易摩擦をはじめとする世界的な経済、政治の混乱によって影響を強く受けている。

米国は 9 月 1 日から 1120 億ドル相当の中国製品に 15% の関税を課し始めた。これはトランプ大統領が 8 月の初めに発表した 3000 億ドルの中国製品に対する追加関税の第一段階である。それに対し、中国も 750 億ドル相当の米国製品に対する関税の見直しを始めた。特に米国産の石油は 5% の関税が課されるようになった。

保険、不動産、証券、エネルギー、銀行、農業、ゴム製品、水産加工、ヘルスケア・薬品、建設、運輸などのセクターは値下がりした。

主な下落銘柄は、ビンググループ（VIC）（-0.4%）、マッサングループ（MSN）（-1.9%）、ペトロベトナムガス（GAS）（-0.8%）、ペトロリメックス（PLX）（-1.3%）、ベティンバンク（CTG）（-1.2%）、ビンホームズ（VHM）（-0.2%）、ビンコムリテール（VRE）（-0.6%）、テクコムバンク（TCB）（-0.5%）、サイゴンビールアルコール飲料総公社（SAB）（-0.2%）、ベトナム投資開発銀行（BID）（-0.1%）などであった。

工業団地と不動産も利益確定圧力に押されることになった。ソナデジ (SNZ) (-9.7%)、ナムタンウエン工業団地 (-8.8%)、第二工業都市開発 (D2D) (-7%)、VRE サイゴン投資 (SIP) (-5.8%) などが下落した。

一方、いくつかの銘柄は上昇し市場の下落を和らげた。ビナミルク (VNM) (+0.8%)、FPT グループ (FPT) (+1.1%)、ベトコムバンク (VCB) (+0.1%)、モバイルワールドインベストメント (MWG) (+0.6%) などは上昇した。

ハノイ取引所の HNX 指数は 0.89% 下落し 101.40 ポイントで取引を終えた。

出来高は 3120 万株で売買代金は 5630 億ドンであった。

バオベト証券によると、VN 指数は 970-975 ポイント付近で揉みあうことになるだろうとのことだった。

この領域まで下がると反発が期待される。しかし、銘柄によって明暗が分かれることになるだろう。第 3 四半期の決算への期待、ETF ファンドの再構成、9 月の FOMC などによって影響を受けるだろうと同社は予想した。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Incorporated (JSI) から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。